© 2024 公益社団法人日本道路協会

第14回

まるで映画のワンシーンのように心に深い道がある

シーニックバイウェイ北海道の歩み

和泉 晶裕
IZUMI Akihiro
北海道建設業信用保証株式会社
代表取締役社長
一般社団法人シーニックバイウェイ
支援センター代表理事
（元）国土交通省北海道局長

はじめに

シーニックバイウェイ北海道は，地域に暮らす人が主体となり，企業や行政と手をつなぎ，美しい景観づくり，活力ある地域づくり，魅力ある観光空間づくりを行う取り組みである。2005年（平成17年）よりスタートし，2024年（令和6年）2月現在，14の指定ルートが認定，3つの候補ルートが登録されており，約500団体が活動している（図-1）。

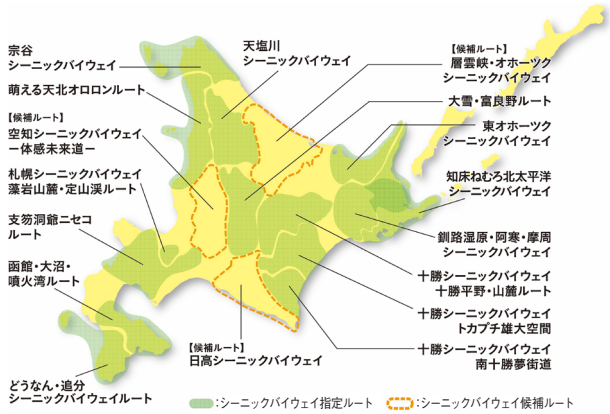

図-1　シーニックバイウェイ北海道全17ルート

1．シーニックバイウェイ北海道の始まり

シーニックバイウェイ北海道のきっかけは，1993年（平成5年）から始まった道の駅制度だった。制度初年度から始まった北海道道の駅スタンプラリーは年々人気を集め，約10年後の2004年度（平成16年度）には5万人が応募し，全道に当時76カ所あった道の駅の全てを訪れた“完走者”が9,000人以上となっていた。

当時，第6期北海道総合開発計画が策定された時期であり，その推進のために北海道開発局が実施した道内のドライブ観光に関する調査では，ドライブの目的として各地のグルメや美しい景観を挙げる例が多く，北海道の地域資源の豊かさを再認識し，点の道の駅から線となる道路沿線へのドライブ観光振興策が検討されていた。

そこで注目したのが当時アメリカで住民やNPOが中心となって行っていた道路を中心としたコリドー（回廊）での景観や環境保全の取り組みであるシーニックバイウェイだった。1980年代，アメリカは財政赤字と貿易赤字が増大し，道路の維持管理さえままならなかった。そんな「荒廃するアメリカ」からの脱却を図るための一施策として1989年（平成元年）に制定されたのがシーニックバイウェイ法だった。全米において道路沿線において地域住民が主体となった観光，景観・環境，地域づくりに関する様々なメニューが行われていた。

シーニックバイウェイ北海道は，2001年（平成13年）に平成14年度国土交通省重点施策として取り組むことが公表され，2002年（平成14年）には米国シーニックバイウェイの実施状況把握のため調査団を送り，北海道への制度導入に向けての検討課題等について現地調査が行われた。2003年（平成15年）2月には「北海道におけるシーニックバイウェイ制度導入モデル検討委員会（委員長：石田東生 筑波大学教授〈当時〉）が設置され，2年間の試行期間での取り組みの検討を開始した。同年4月には旭川～占冠（しむかっぷ）間と千歳～ニセコ間の2つのモデルルートが指定され，2年間の試行で得られた知見を踏まえた上で2005年（平成17年）3月にシーニックバイウェイ北海道が正式にスタートした。

また，シーニックバイウェイの取り組みとして，北海道でのドライブ観光をさらに外国人旅行者に広げるという観点から香港，シンガポール等の旅行会社に働きかけ，レンタカーツアーが実施された結果，近年の外国人へのレンタカー貸出台数は急激に増加している（図-2）。

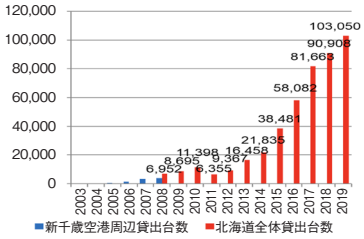

図-2　外国人へのレンタカー貸出台数（年別）

2．シーニックバイウェイ北海道推進の基本方針

シーニックバイウェイ北海道は，北海道固有の景観，自然，歴史，文化，レクリエーション資源等の地域資源を最大限に活用し，競争力ある美しく個性的な北海道を実現していくため，地域の魅力を高める意義や，目標の実現を目指し，魅力的かつ活力ある地域社会の形成を図っている（図-3）。

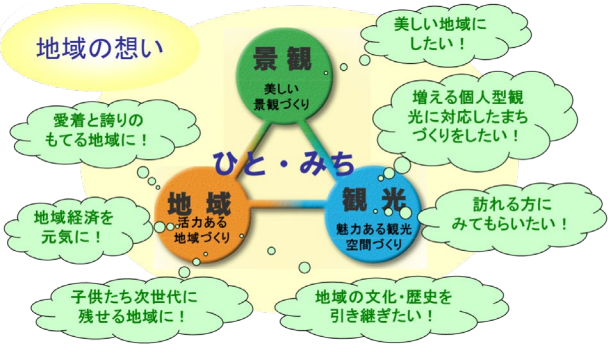

図-3　シーニックバイウェイ北海道地域の想いと３つの連携要素

3．シーニックバイウェイ北海道の体制

（1）シーニックバイウェイ北海道の枠組み

シーニックバイウェイ北海道では，複数の市町村からなる広域の活動団体で組織されたルート運営代表者会議がルート運営活動計画を作成し，ルート指定の提案を行うこととしている。提案されたルートは，アドバイザー会議の意見を踏まえて，シーニックバイウェイ北海道推進協議会がシーニックバイウェイの指定ルートとして認定，もしくは候補ルートとして登録される。これにより，地域と行政が連携し，シーニックバイウェイルートにおいて景観その他の地域資源の保全・改善等に資する活動を円滑に実施することができる（図-4）。

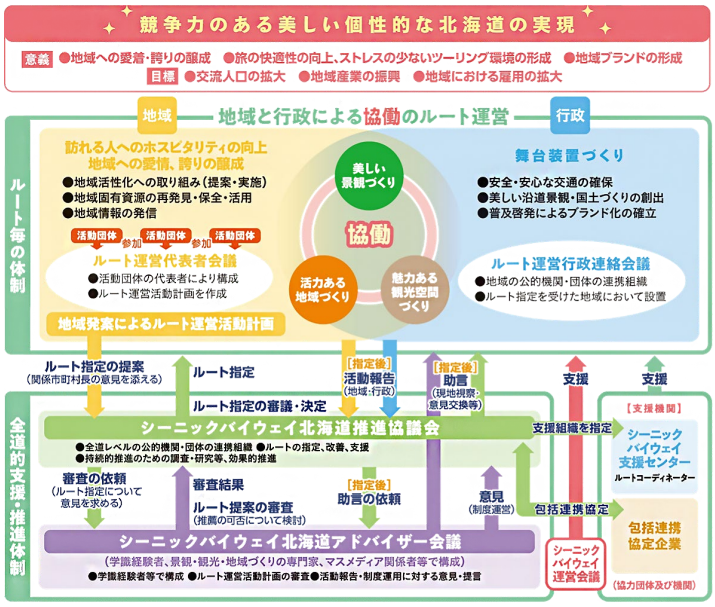

図-4　シーニックバイウェイ北海道の枠組み

（2）シーニックバイウェイ北海道推進協議会

シーニックバイウェイ北海道推進協議会は，シーニックバイウェイ北海道制度の推進その他シーニックバイウェイ北海道に関する取り組みの企画及び立案並びに推進を行う（写真-1）。

写真-1　シーニックバイウェイ北海道推進協議会（2023.12.12）

（3）アドバイザー会議

アドバイザー会議は，推進協議会の求めに応じてシーニックバイウェイ北海道の推進に関する事項を調査審議する他，シーニックバイウェイ北海道の推進に関する意見を提出することができ，学識経験者等複数名をもって構成される。

（4）（一社）シーニックバイウェイ支援センター

シーニックバイウェイ支援センターは，シーニックバイウェイの広報，理念の浸透や，活動の活性化に不可欠な民間と行政との連携を図るとともに，これらの連携を専門的な観点から支援する組織として推進協議会より指定された一般社団法人である。

（5）民間企業等との包括連携協定

シーニックバイウェイ北海道の趣旨に賛同する各種団体・企業等が地域活動への支援・連携を行う取り組みを推進するため，包括連携協定制度を2012年（平成24年）から開始し，2024年（令和6年）2月現在，14の包括連携協定企業と連携した取り組みが実施されている（写真-2）。

写真-2　包括連携協定企業 締結式（2023.12.12）

4．シーニックバイウェイ北海道の主な取組

（1）シーニックバイウェイ北海道の主な活動

シーニックバイウェイ北海道は，「美しい景観づくり」，「活力ある地域づくり」，「魅力ある観光空間づくり」を３本柱に，自発性，持続性，公開性，連携性を基本的姿勢とし，総合的かつ戦略的な活動を推進している。

1）美しい景観づくり

活動団体や地域間の連携などにより，沿道景観をより魅力的にする活動で，具体的には「沿道の清掃活動」，「植栽活動による広域的な花ロードづくり」，「現地調査によるルート内の沿道景観診断」，「地域資源の広域的

視察・発掘調査」，等の活動を行っている（写真-3）。

ルート内の沿道景観診断

沿道の植栽活動（南区花いっぱい運動）

写真-3　美しい景観づくり

2）活力ある地域づくり

地域資源を活かしたまちづくりの勉強会など，地域の誇りを育む活動で，具体的には「まちづくりのシンポジウムや講演会などの開催」，「沿道景観をテーマにしたフォトコンテストの実施」，「歴史的建造物など，地域資源を生かしたまちづくりの勉強会」，「外国人旅行者へのホスピタリティ向上のための英会話講座」等の活動を行っている（写真-4）。

ご当地風土アドバイザー（ライフコンシェルジュ）

2022 南十勝夢街道フォトコンテスト

写真-4　活力ある地域づくり

3）魅力ある観光空間づくり

旅行者の満足度向上を目指し，観光メニューの創出，イベントの実施，情報発信などを行う活動で，「地域を再発見，紹介するツアー，イベントの開催」，「冬のビューポイント，冬の観光メニューの調査・開発」，「ビューポイントを紹介したフリーペーパー，マップ，ホームページ，英語版ガイドブックなどの作成」，「メーリングリストによる活動団体の情報共有，意見交換」等の活動を行っている（写真-5）。

広域サイクリングイベント「TEPPEN-RIDE」

シーニックdeナイト

写真-5　魅力ある観光空間づくり

（2）ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト

シーニックバイウェイ北海道では，前述の「美しい景観づくり」，「活力ある地域づくり」，「魅力ある観光空間づくり」の活動において，他の模範となり，将来への発展性が高く評価できる活動を選出・表彰する取り組みとして「ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト」を2008年度（平成20年度）から実施している。表彰は，活動団体の投票で選出する「活動団体賞」，有識者委員の審査を経て選出する3つの「部門賞（美しい景観づくり賞，活力ある地域づくり賞，魅力ある観光空間づくり賞）」及び各部門賞から最も優秀な活動を「最優秀賞」として決定・表彰している。

2022年度（令和4年度）の最優秀賞は，萌える天北（てんぼく）オロロンルートの「自転車ツーリング事業」が選ばれた（2023年（令和5年）12月12日第21回推進協議会にて決定）。

この事業は，入学者数の減少により廃校の危機に瀕する道立苫前（とまえ）商業高等学校の存続及びアウトドア観光による観光地域づくりを達成するため，学校と萌える天北オロロンルートがタッグを組み，「自転車」をキーワードとした協働のまちづくりを展開する取り組み。自転車ツーリングの企画ではコース選定や立ち寄り先を紹介，ツーリング当日は2泊3日寝食を共にしながら，安全走行のための伴走やエイドの設営などで学生をサポート。また，協働でサイクルラックを製作し，高校生がオススメする町内施設で設置するなど，協働に活動することで，ルートメンバーのモチベーション向上や地域団体との交流も生まれ，ルートの活性化に繋がった（写真-6）。

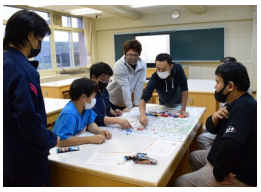

写真-6　自転車ツーリング事業

（3）シーニックバイウェイ「秀逸な道」

シーニックバイウェイ「秀逸な道」は，シーニックバイウェイ北海道の各ルートの中でも特に魅力的な景観等を有する道路として，各ルートの活動団体の推薦をもとに，2021年（令和3年）4月にシーニックバイウェイ北海道推進協議会が認定した。

北海道には，豊かな自然環境，雄大な景色や生産活動の中で形成された農村の風景等の魅力的な観光資源があり，その北海道の強みを活かして，北海道総合開発計画では「観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり」を目指している。しかし，広域な北海道では，都市間や観光地間の移動に多くの時間と費用がかかる。観光客の訪問動機を向上させ来訪機会を増やすためには，時間短縮に資する高速道路ネットワークの整備に加え，各地域の魅力的な「みち」を指定し，磨き上げることにより，移動そのものを楽しくする目的で取り組んでいるのがシーニックバイウェイ「秀逸な道」である。

シーニックバイウェイ「秀逸な道」は，2023年（令和5年）現在，選定区間12区間，候補区間6区間が認定されており，多様な主体の連携のもと，ハード・ソフトの景観形成・維持の取り組み等により，観光資源としてさらに磨き上げ，その魅力を発信することでドライブ観光客の誘客を促進し

ている（図-5）。

「秀逸な道」の情報発信として，公式サイトやハッシュタグキャンペーン，札幌地下歩行空間等札幌圏でのパネル展示，紹介動画の公開，東京・池袋で行われる「北海道まるごとフェア in サンシャインシティ」での情報発信等を実施している。また，2022年（令和4年）シーニックバイウェイの活動ルートの全道会議において，ドライブ観光客に対して現地で情報提供できる取り組みとして現地看板設置の提案があったことから，2023年（令和5年）7月より現地看板の設置を進めている（写真-7）。

図-5 シーニックバイウェイ「秀逸な道」チラシ

地下歩行空間　紹介動画公開
地下歩行空間　パネル展示
北海道まるごとフェア inサンシャインシティ
現地看板設置

写真-7　情報発信の取組

5．新しいステージに向けて

（1）シーニックバイウェイ北海道制度検討委員会　提言書

シーニックバイウェイ北海道は，みちをきっかけとして，交流人口の拡大，地域関連産業の振興及び地域における雇用の拡大を目指す公民連携プログラムとして始まった。活動団体をはじめ関わる全ての人が「美しい地域にしたい！」「地域経済を元気にしたい！」「訪れる方に喜んでもらいたい！」等の想いを実現するために試行錯誤を重ね，地域への愛着と誇りを基盤にして歩みを進めてきた。

２つのモデルルートから始まったその歩みは，道内各地へと広がり，14の指定ルートと3つの候補ルートの約500団体が様々な地域づくりに取り組む「地域活動のプラットフォーム」として厚みを増し大きく成長した。そして活動開始から約20年，北海道のみちとまちはとても綺麗になった。

グローバル化の進展，世界規模での感染症拡大の経験を経て，デジタル化の推進など社会環境が大きく変化する一方，人々の価値観も「心の豊かさ」を重視し，地方移住や多様な暮らし方・働き方への関心も高まっており，これまでのシーニックバイウェイ北海道の歩みを見つめ直し，その変化さえも楽しみに変え，シーニックバイウェイ北海道が，さらに一歩，新しいステージに踏み出し，北海道の未来に貢献していくため，2023年（令和5年）3月，シーニックバイウェイ北海道制度検討委員会（委員長：小林英嗣　北海道大学名誉教授）より以下の提言書が手交された（写真-8）。

岩田推進協議会会長と
小林審査委員長（当時）

写真-8　提言書手交（2023.3.13）

提言1：シーニックバイウェイの意義・目的の明確化と共有
提言2：パブリックリレーションズ戦略の策定と実践
提言3：各ルートの活動方針・運営状況に応じた支援体制の構築

（2）シーニックバイウェイ北海道　全道ルート交流会議

前述の提言書を踏まえた新たな取り組みとして，2023年（令和5年）10月26日（木）に帯広市内において「シーニックバイウェイ北海道　全道ルート交流会議」が開催された。

会議では，地域を次の世代・時代に繋ぐために，シーニックバイウェイ活動の“知恵”の共有と“人”の交流を目指し，これからの地域をどのように，次に“つなぎ”，“ひらく”か，その方向性について議論された。

テーマ別分科会では，①シーニックバイウェイ×景観づくり，②シーニックバイウェイ×地域ビジネス，③シーニックバイウェイ×観光地域づくりの各テーマに分かれ，議論が行われた。

シーニック特別鼎談では，「北海道総合開発計画における生産空間の維持・発展に向けて，シーニックに期待すること」と題し，小林英嗣氏（前・シーニックバイウェイ北海道ルート審査委員長），石田東生氏（現・シーニックバイウェイ北海道アドバイザー会議委員長），橋本幸氏（国土交通省北海道局長）による議論が行われた。

意見交換会では，「シーニックをつなぐ・ひろげる」をテーマとし，地域を次の世代・時代に繋ぐため，シーニックバイウェイのルート関係者が一堂に会し，これまでの活動や今後の活動に関する意見交換として「サイコロトーク de シーニック」が行われた（写真-9）。

シーニック特別鼎談
参加者集合写真

写真-9　全道ルート交流会議（2023.10.26）

シーニックバイウェイ北海道は，前述の提言を踏まえながら，制度当初からの「楽しんでるかい？」を合言葉に，地域発案，地域主体により，さらなる取り組みを進めていきたい。